

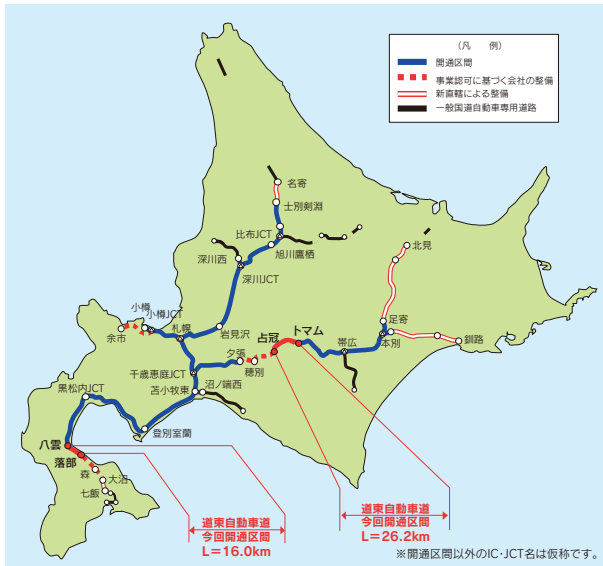
北海道の高速道路ネットワーク構築に向けて

～平成21年度開通予定区間（道東道占冠～トマム間・道央道落部～八雲間）～

はじめに

NEXCO東日本北海道支社では現在、約130kmの高速自動車国道の建設と約590kmの高速自動車国道・一般有料道路並びに36箇所の休憩施設の管理を行っており、1日平均約15万台の方にご利用いただいております。

高速道路の整備においては、今年度、道央道落部～八雲間16km、道東道占冠～トマム間26kmの開通の予定をしているほか、道央道の恵庭～北広島間に位置する輪厚PAにスマートICを6月29日に開通いたしました。これらの開通により、NEXCO東日本が担当する北海道の高速道路としては、約632kmのネットワークが概成することとなります。



今回の開通区間

開通区間の特徴

(1) 道央道 落部～八雲間16km

道央自動車道は、北海道を南北に縦貫し、旭川を

中心とした道北圏と函館を中心とした道南圏を北海道の中心の道央圏を貫いて連絡する高速自動車国道であり、現在までに八雲から士別剣淵間（L = 397.6km）が開通しています。

今回開通する落部～八雲間は、既に通している八雲ICから函館方面に延伸する16.0kmの区間で、八雲町市街地部を山側に回避しつつ、国道5号線の山側の丘陵部を噴火湾に沿った形で、牧場や牧草地が点在する酪農地帯と自然を色濃く残した山林地帯を通過しています。道路構造は橋梁12橋約1.2km、構造物比率約8%、約3.3km（2箇所）の付加車線（四車線）区間を配置した暫定二車線構造で、一部区間に広幅の中央帯を有する外側二車線構造を採用しています。

また、今回の開通区間内にある八雲PAは、隣接する噴火湾パノラマパーク（道立広域公園）とハイウェイオアシスとして一体的整備を進めてきたもので、第二駐車場（公園側駐車場）の活用により、公園施設との相互利用による地域活性化等が期待されています。



道央道八雲町熱田付近から函館方面(4車区間)

(2) 道東道 占冠～トマム間26km

道東自動車道は、北海道を東西に横断し、札幌を中心とした道央圏と帯広・釧路を中心とした道東圏を連絡する高速自動車国道であり、現在までに千歳恵庭ジャンクションから夕張間（42.1km）、トマム

から本別・足寄間（103.3km）が開通しています。

今回開通する占冠～トマム間は、既に開通しているトマムICから札幌方面に延伸する26.2kmの区間で、日高山脈・夕張山地が連なる自然環境豊かな山岳部を通過しています。道路構造は連担するトンネル4箇所約6.2km、橋梁19橋約1.8km、構造物比率約31%、約3.6km（2箇所）の付加車線区間を配置した暫定二車線構造です。



道東道上トマム付近札幌方向望む

(3) 新技術・環境保全・安全対策の取組み

舗装には走行性・耐久性を向上させた北海道型高機能舗装の全面採用、トンネル内照明に蛍光灯（低温対策型）を採用するなどの新技術を導入しました。

環境築堤盛土

築堤盛土(本線より)

ポール

猛禽類保護の為に横断防止ポール

小動物対策を兼ねた立入防止柵

動物侵入防止型立入防止柵

北海道の高速道路で初めての採用となるトンネル内照明

使用電力量(kwh/m・年)

高圧ナトリウムランプ	約3割削減
Hf(高周波型)蛍光灯	

高圧ナトリウムランプ (従来)

Hf(高周波型)蛍光灯 (今回採用)

内照式照明

省電力・長寿命のLEDを用いた内照式照明とプリンカーライト

今回開通する2区間における環境保全への取組み

また、インターチェンジなどの標識（内部照明型）、管理施設照明の一部にLED照明の採用、防護柵資材の直接調達など建設コスト削減にも取り組みました。

また、一部区間での環境築堤の採用や全線に亘る動物侵入対策用立入防止柵の設置及び猛禽類の飛来を考慮した河川部ロードキル対策ポールの採用、植物の移植や猛禽類営巣期間では工事抑制するなどして希少動・植物の保全対策や周辺環境に配慮し工事を進めています。

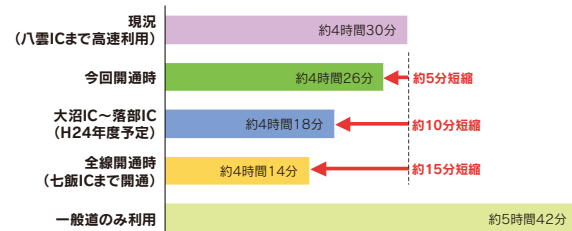
霧・降雪による視程障害対策として自発光式スノーポールを全線設置しています。特に道東道では冬期の吹雪などによる視程障害対策として、防雪林植栽（苗木）及び高さ4mの防雪柵を設置し冬期交通安全対策を行っています。

開通効果

道央道では、道南地域の幹線道路である一般国道5号の災害などに伴うリダンダンシーが確保され、通行規制時の迂回が大幅に軽減されるなど定時性・安全性が向上し、道南圏へのネットワーク機能が強化されることで、地域の活性化及び函館を中心とした道南周遊観光促進が期待されています。

道東道では、一般国道274号の日勝峠を回避するルートとして夕張から十勝清水間の移動では一般道

○札幌市から函館市までの旅行時間の短縮



※旅行時間は道路時刻表より算出
七飯IC～八雲IC間は、開通している八雲IC～国縫IC間の平均速度より算出
【一般道のみ利用】は国道230号(中山峠)、国道5号を利用

【道央自動車道落部IC～八雲IC間】の整備効果

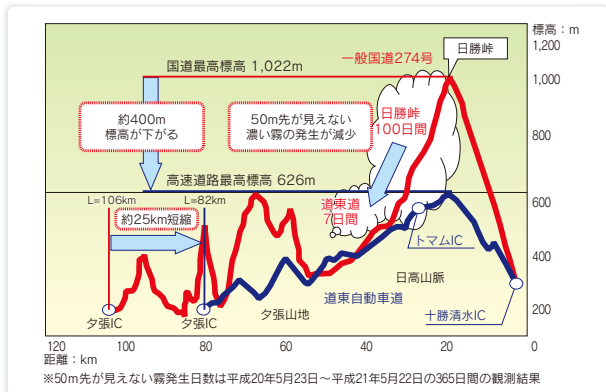
○札幌市から帯広市までの旅行時間の短縮



※旅行時間は道路時刻表より算出
夕張IC～トマムIC間は、開通している十勝清水IC～芽室IC間の平均速度より算出
【一般道のみ利用】は国道12号、国道274号、国道38号を利用

【道東自動車道占冠IC～トマムIC間】の整備効果

利用に比べ約20分の時間短縮が図られ、また、日勝峠に比べ霧による視程障害の影響が大幅に少ない状況（50m先が見えない霧発生日数が1/14、平成20年実績）で通行が可能となり、より快適で安心・安全なアクセスが確保されることで、観光行動圏が更に拡大し、地域の活性化及び交流の促進が期待されています。



道東道（夕張IC～十勝清水IC間）と一般国道274号の標高等の比較

おわりに

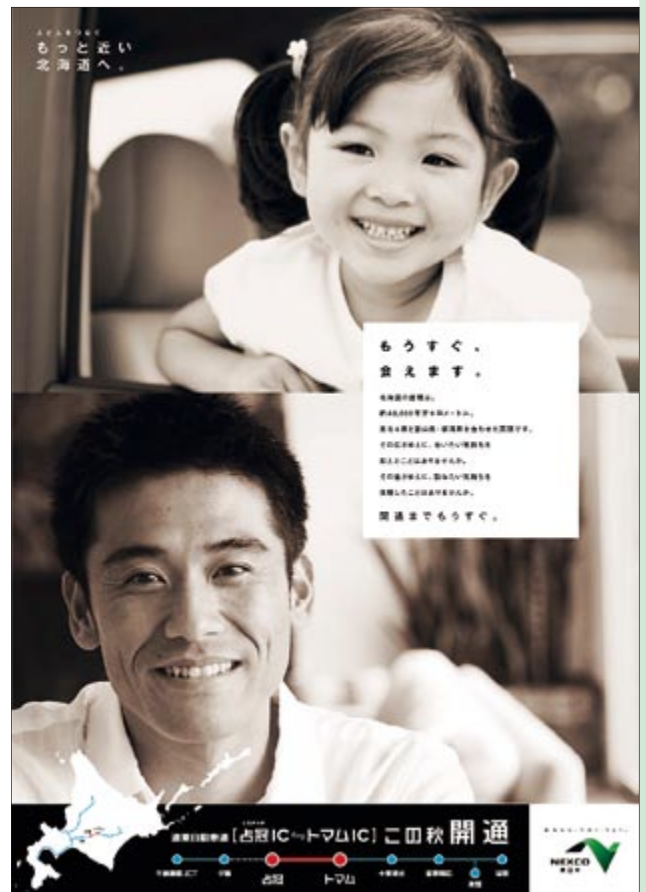
道央圏と道東圏のアクセス向上となる道東道夕張～占冠間、道央道大沼～落部間、北海道横断自動車道余市から小樽までの区間についても、一日でも早い高速道路ネットワークの完成を目指し、北海道の皆さま方にご利用いただきたいと、鋭意事業を進めていきます。

営業中の高速道路につきましては、効率的な管理運営を行い、通行止め時間の短縮等による信頼性の高い交通確保を目指すと共に、交通安全対策、橋梁耐震補強、ETC施設の拡充、地域と連携した魅力ある休憩施設作りなど、24時間365日、お客さまのニーズに即したサービスの提供に努めています。

今後とも、関係機関の方々と連携し、「お客様を大切に経営」、「徹底した効率化の追求」、「公正な事業運営」の3つの方針のもと、これまで高速道路が果たしてきた役割を更に発展させるため、北海道の高速道路ネットワークの整備・拡充を図ることはもとより、先に始めました「生活対策」としての高速道路の料金割引とともにETCを活用した商品など、お客様や地域の皆様のご期待に添えられる多様なサービスを提供し、より使いやすく安全・安心・快適・便利な高速道路ネットワークを目指していきます。



予告ポスター〔落部～八雲〕



予告ポスター〔占冠～トマム〕